



札幌部会(第1回)

日時：	2011年11月12日(土) 14:30～16:50
場所：	北海道教育大学 札幌駅前サテライト教室3 札幌市中央区北5条西5丁目7 Sapporo55ビル 4階
参加者：	山下 豊(啓明中学校) 川瀬 雅之(札幌開成高校) 兼間 昌智(平岡中学校) 松澤 剛(札幌藻岩高校) 金澤 敦(中島中学校) 則末 一大(札幌手稲高校) 清水 顕史(平岡中央中学校) 吉川 敦巳(登別明日中等教育学校) 小林 幸平(稲穂中学校) 中村 大輔(光星中学校・高校) 阿出川祥代(上野幌中学校) △佐藤 豊記(江別高校) △志田 光瑞(千歳北陽高校) △部会後の教育懇談会から合流 [順不同] 提言・助言 篠原 総一先生(同志社大学経済学部 教授) 高橋 勝也先生(東京:桜修館中等教育学校) 濱地 秀行先生(北海道教育大学札幌校)

<内容概略>

1. 開会

札幌駅隣接の Sapporo55 ビル4階にある北海道教育大学のサテライト教室を濱地先生の手配により会場としてお借りし、第1回の札幌部会を上記の参加者を得て開催する。定刻通りに開会。

2. 代表挨拶

経済教育ネットワークのこれまでの活動について、その概略並びに札幌部会を立ち上げるにいたった経緯について触れながら教育現場の抱える課題を指摘され、経済教育への取り組みの必要性について語られた。また、全国各地の取り組みについて紹介され、今後北海道に期待すること、またそのための支援についても述べられた。

3. 本日の部会のテーマについて (川瀬より)

本日開催の第1回部会は、北海道(主に札幌中心)における今後の活動の核となっただく道内の中学校・高等学校・中等教育学校の先生方に集まっただき、それぞれが所属する研究団体のこれまでの活動なども踏まえながら交流し、あらためて人的なネットワークを結び、今後の取り組みに向けての共通理解を形成して経済教育の活動・展開を始める契機としたい。

4. 参加者自己紹介

山下) 北海道社会科教育連盟に所属し、札幌市社会科教育連盟において活動している。これまで札幌で開催された経済教育ネットワークのワークショップ等の開催にもかかわらず、このネットワークの取り組みや意義に賛同している。以前、川瀬先生とは札幌市教育委員会で企画した消費者教育の実践研究と一緒に取り組んだ。本日、中学校の教科研究会等で活躍されている先生方にお集まりいただき感謝している。

なお、教育大学附属中学校の菅谷先生が所用のため本日は出席できないとの連絡を受けている。

金澤) 山下先生と同じ研究会に所属し事務局を担当している。エネルギー環境教育を中心に取り組みを行っている。これまでもワークショップに参加してきたが本日も勉強させていただきたく参加した。

兼間) 通称「札幌研」と呼ばれていた研究会が札幌市教育推進研究会と改称したが、その事務局を担当している。研究会として授業実践の交流などに取り組み、社会科の授業における板書を資料冊子に



する事業にも取り組んでいる。専門が日本史で本日の案内にあった「経済から見た歴史の教え方」というテーマには非常に興味がある。夏のワークショップにも参加させていただき大変良い刺激を受けた。今後もできる限り参加し協力していきたい。

中村) 中学校・高校の私学で教壇に立っている。北海道高等学校政治経済研究会(道政研)に所属して活動している。実は昨日もその学習会に参加してきた。幅広く研修の機会をとらえ教科指導の力を高めていきたい。

小林) 教員になって2年目。今年は校内研修の担当者として授業研究に取り組んでいる。経済教育の教材として「貿易ゲーム」の実践を行った。本日その際の指導案等をレジュメとして持参しているので時間があれば先生方のご指導をお願いしたい。この会のワークショップにも参加し研修を積みみたいと考えている。

阿出川) 社会科の歴史分野を指導する際に、経済の観点で歴史をとらえることに新鮮な感じを持っている。例えば元寇やマルコポーロの日本紹介などモンゴルの影響などを経済の観点でとらえることなどに興味がある。小林先生同様機会を捉えて研修を積んでいきたい。

清水) 大学では考古学を専攻していた。歴史等にも興味があるが中学校の「選択社会」の授業を中心に「株ゲーム」などの経済シミュレーションに取り組んできた。新しい学習指導要領では「選択社会」が消えてしまうので今後は違った形での経済教育を工夫して取り組んでいきたい。

高橋) 都立桜修館中等教育学校に勤務している。今回北海道に来る機会があり皆さんにお会いでき良かった。全国の公民科研究会の事務局長を務めることになった。来年度その全国大会が北海道で開催されるのでまたその節にはお世話になります。実は、15年前に札幌市の教員採用試験に合格している。もしもその時に東京ではなく札幌市に勤務していたら皆さんの一員となっていた。札幌部会の立ち上げに参加でき良かった。後ほど東京部会の様子など報告したいし、現任校の中等教育学校での授業実践事例も持参したので披露したい。

吉川) 現在北海道で唯一の公立の中等教育学校に勤務している。中学1年の地理、中学3年の公民、高校2年に相当する5年生で政治経済、高校3年に相当する6年生で政治経済の演習の授業を担当している。学習指導要領上中学校と高校の教科内容では重複がかなりある。中等教育学校としての特例措置を活用してその重複を改善しながら授業展開等に取り組んでいる。

則末) 昨年まで道政研の事務局長を務めていた。現任校では倫理と政治経済を担当している。代表の篠原先生には道政研の研究大会等で大変お世話になった。あらためてお礼申し上げたい。

松澤) 今こそ中・高・大の連携が重要であり必要になってきている。教科書に書かれている抽象的な世界をどのように生徒に教えていくのか、この経済教育ネットワークなどの取り組みの成果を現場で活かしていきたい。

濱地) 現在北海道教育大学で研究と教育を行っているが、出身は九州で専門は経済学。経済教育学会に所属している。篠原先生からのお声かかりでこのネットワークに参加しているが、実際経済教育の必要性を感じている。教職をめざす学生に対しても様々な機会を捉えながら経済教育への芽を指導している。

川瀬) 現在の勤務校は2015年から道内の公立では2校目となる中等教育学校への改編がきまっている。そのためばかりではないが、これまでに開催されたワークショップにおいても中学校と高校の緊密な連携について強い関心を持ち具体的な活動の積み重ねの必要性を感じている。今日の部会立ち上げにあたっては多くの中学校の先生方にもご参集いただいているが、今後とも更なる連携を図りながら経済教育への取り組みが進むことを期待している。篠原先生のご紹介で執筆の機会をいただいた『経済セミナー』連載のコピーをお配りしているのであとでご覧いただきたい。

5. 他の地域の「部会」について (篠原代表、高橋先生より)

篠原代表より)

本ネットワーク設立のそもそもの発端を申し上げますと、経済に関する社会教育の必要性に 대응ということがある。その政策に対してはいろいろと意見はあるが、竹中平蔵氏から指摘された「一般市民の政策（特に経済政策）に対する理解（力）が不足している」という指摘には賛同し、経済教育の必要性、学校現場における経済教育の展開に対し大学において経済学を専門とする研究者としてかかわりを持つこととなった。

当初は、われわれのメンバーが直接学校に出かけていって経済の基本的な内容を教える事業も展開していたが、残念ながらそれらの取り組みはあくまでも「点」とどまっていた。そこで「点」を「線」として発展させていくために、経済学の専門家を交え、中学校、高校、そして大学等をつなぎ、個別の取り組みのネットワーク化を図るものとしてこの「経済教育ネットワーク」を立ち上げることとなった。

ネットワーク化が主たる目的であるが、教育現場における実践にも取り組む場として「部会」が大阪や東京において開催されている。部会には現場の先生方とともに経済学者も加わり、経済に関する理論や具体的な事象の教え方や教材の開発などについて協議を行っている。札幌の部会においても、札幌の特徴を発揮し、教材づくりなどにもぜひ取り組んでほしい。

一言で部会といっても大阪と東京ではその活動の傾向も雰囲気も違っている。大阪部会は夏のワークショップで札幌まで来ていただいた奥山先生の「ネタ研」など中学校の先生方が比較的多く、実践事例の交流や教材づくりが盛んに行われている。その成果は教材として世に出されたり、学研などから大判の書籍となって出版されたりしている。

一方東京部会は高校中心に大学の教員も多く参加し、「高校レベルで効率をいかに教えるか」などのテーマについて議論を深めるなかで、まず先生方に経済や経済学の考え方・ものの見方について理解してもらい次に生徒にそれをどのように伝えていくかを課題として取り組んでいる。部会の会場として日本大学を利用していることもあって大学の先生方の参加の割合も大きい。筑波大の宮尾先生なども毎回参加いただいている。また東京部会では、新聞記事を活用した教材づくりにも取り組んでいる。



両方の部会に共通しているテーマとしては、経済分野に関わる大学入試問題の研究を行っている。大学によって片寄った出題なども見られ、部会での協議やワークショップなどの機会に問題点を指摘し解説を加えながら情報の共有化をはかっている。その他、各自が授業や教材研究で疑問に思ったことなどを自由に持ち込んで協議している。

部会の場合ばかりでなく、ネットワークのHPにも討論や情報交換のコーナーがあり意見の交換がなされている。大阪大の大竹氏などの「教科書にはきちんとした説明が書いていない」「市場の失敗は書いてあるが市場の意義や効率を教えていない」などの意見がある。

大学入試問題の研究については、入試プロジェクトとしても立ち上げている。教材づくりとして部会で話題となっているものとして、「教科書を使って展開する授業」から発想して、大学における教員養成用のテキストづくりの話も出ている。

部会とともに経済教室も東京証券取引所の協力を得ながら全国各地で開催しているが、今年は全国で千人ほどの参加者を得ている。ワークショップも全国で年間5～6回開催している。

高橋先生より)

参加している東京部会について紹介する。篠原先生の紹介にもあったように、東京部会は大学の先生方が多く参加している。大阪部会が2ヶ月に1回のペースでの開催に対して、東京部会は月1回のペースで開催され、高校、中学、教科書会社2社の参加がある。大学の経済学の先生方に経済学の本質を教えていただいている。はじめの頃はかなり専門的で難しい内容であったが回を重ねるごとにお互いの理解度も伝わりまた理解の度合いも深まって有意義なものになっている。実践事例など自由に持ち込んで疑問点の解消や教材研究や素材の経済学的な分析・理解の場となっている。

HPの討論室では宮尾先生、大竹先生、新井先生のやり取りが面白い。

篠原代表より)

札幌部会の開催としては3ヶ月に1回程度を目標にしながら、本部からも参加者を出しながら支援していきたい。会場については今回の会場等が利用できることが望ましい。なお、毎回記録をとって実践の積み重ねと共有化をはかってほしい。

ワークショップ、経済教室、部会以外に年次大会も開催している。今年は12/3(土)に京都の同志社大学で開催する。テーマは「法教育と経済教育の対話」となっている。

6. 次回の「部会」について

3ヶ月に1回のペースでの開催ということで参加者の日程等を確認調整し、次回、第2回札幌部会を来年2/4(土)14:30～16:30(17:00)とした。会場については、残念ながら本日のサテライト教室が埋まっていたため別途手配することとした。(後日確定)

7. 今後の活動について、

川瀬より下記のような新井先生との打合せ内容について報告。北海道における今後の活動として、来年夏のワークショップについては休止とし、ワークショップについては再来年2013年の冬から再開することとした。その間、部会については3ヶ月に1回のペースで実施していくなかで実践の積み重ねをはかっていく。



10/22 新井先生との打合せの概要。たたき台として報告する。

- ① 来年の夏休み経済教室の札幌開催はパスし、その後を考える。
- ② 夏休みの企画は中学校の先生方が集まりやすい時期を優先したい。(7月末頃か?)
- ③ 札幌部会をはじめから規模を大きくするのではなく徐々に参加者の輪を広げ、次の後継者を育てるという意識で取り組みたい。
- ④ さしあたって、11/12は10名程度のコアメンバーの集まりとする。
- ⑤ 11/12の内容としては、今後の方向性についての話し合いと篠原先生の「幕府の財政改革」、高橋先生の実践報告という形でいく。
- ⑥ 今後「部会」を、定期的(3ヶ月に一度など)に開催するように検討していきたい。
(「部会」には道内メンバーばかりでなくネットワークの本部や他の地域からも参加する)
- ⑦ 夏の経済教室も含め、年に二度(夏、冬)にワークショップの形で広く先生方を集める会を開催したい。(具体的な開催時期については今後検討していく)
- ⑧ 「部会」として、教材開発を進め、最初はプリント冊子でも良いから形にしていきたい。

篠原代表から、歴史と経済学のコラボ授業に関して、「戦前の日本」「江戸幕府の改革」と取り組み、来年は「戦後の国際経済」についてまとめていくことが紹介された。(「江戸幕府の改革」について、事前にレジュメ等もご用意いただいていたが、時間の都合により今回の部会では具体的には紹介されなかった。)

8. 実践交流

高橋先生より)

高橋先生から「便乗値上げを例に、「道徳」「倫理」で市場経済について考える」「便乗値上げを例に「政治経済」で市場経済を考える」の実践事例が紹介された。レジュメの中に授業で用いられた学習プリントも掲載され、学習のねらいや授業者の意図も明確に示された発問が披露されて、生き生きと授業の様子が報告された。生徒を揺さぶり考えさせながら理解を深めていく授業展開に参加者から共感の声が上がっていた。

「道徳」「倫理」の授業では便乗値上げは悪と意思表示する生徒が、「政治経済」の事例で1L=千円という選択をする。この2つの場面を付き合わせながら生徒を揺さぶり考えさせる教材構成、授業展開は見事であった。

実践報告に対する助言として、篠原代表から効用や配分(rationing)といった概念も盛り込んで考察させることによってより明瞭な理解を導くことができるという指摘があった。一例ながら、経済学者が部会等に同席し実践事例に対して専門家の視点から指摘がなされることのメリットを実際に感じた瞬間であった。

このような授業を企画したそもそものねらいはどのようなものかという質問に対して、経済の学習は皆がしあわせになることを学ぶためのもの、この授業もその一環との回答。

便乗値上げに対してのクラスの中での協議としてどのような意見が多かったのかという質問に対しては、生命が大切であるという声が多かった。



便乗値上げを取り上げたことについて、生徒に提示した事例の条件設定について、同じ現場で値上げした場合には「便乗」とは言い難い。別の地域なり場所で値上げした場合が「便乗値上げ」となる。つまり別の市場において価格上昇が離れているにもかかわらず引き起こされた様な場合となる。生徒に提示する条件設定については更にいろいろな工夫も考えられる。

経済学（経済分野）に関わっての理解と道徳・倫理のコラボ授業は大変興味深い、「政経」ではどの単元で取り組むのかという質問に対して、需要曲線・供給曲線の単元で取り上げているとのこと。

最後に篠原代表から、経済政策についての考え方の基本として、答えは一つではないということ、そして社会的な折り合いをどこで付けていくのかという判断や選択の問題であるという指摘があった。

小林先生より)

中学校1年生で実践した「貿易ゲーム」の実践報告が行われた。指導案ならびに生徒に提示した条件提示プリントの実物なども持参しての報告であった。教職経験2年目とは思えない素晴らしい実践であり、部会の短時間での報告だけではもったいない内容であった。機会を見つけてもう一度広く実践を発表する時間を設けたい取り組みであった。

すでに他にも様々な実践が展開されている「貿易ゲーム」ではあるが、勤務校の中学1年生の特性をよくとらえ、条件提示の情報をあえて中学1年以上の学習が必要な英文で与えたり、時間の経過を組み込んだ条件変更などをもりこみ、生徒の主体的な学習意欲を今回の授業実践にとどまらずにその後の学習においても継続的に引き出すような工夫がなされていた。参加者から感心の声が上がっていた。

会場の都合から終了時間が迫っており篠原代表から一言だけのコメントであったが、比較優位についての理解をどのように盛り込んでいくかの工夫について考えていく必要があるとの助言が与えられた。

9. 閉会

篠原代表より一言ご挨拶をいただき閉会。

※ 部会終了後、所用により部会のみ4名（小林、阿出川、松澤、則末）を除き、教育懇談会からの参加の2名を加え、参加者12名で隣のビルに会場を移動して引き続き情報交換を行う。参加者各位が所属している研究会の活動の様子、中学校、高校並びに中等教育学校についての幅広い情報交換が和やかな雰囲気の中予定の2時間を越えて行われた。

(記録文責：川瀬 雅之)

次回開催予定：2月4日（土）14：30～17：00。

会場：キャリアバンク セミナールーム

議題：未定